

2022年度 玉川大学脳科学ワークショップ

2023年2月15日～16日（表彰式3月24日）

玉川大学脳科学ワークショップの目的は玉川大学脳科学研究所に関わる様々な分野の教員、研究員、大学院生が一堂に会し研究発表を行い、それぞれの研究に対して意見を出し合うことでお互いの研究の発展を促すとともに大学院生の教育を行うことにある。

2022年度は玉川大学の Human Brain Science Hall 内 1F レクチャールームにて2日間の開催を行った。2020年度と2021年度は新型コロナウイルス感染症対策のためにオンラインでの開催であったが、3年ぶりのオンサイトでの開催となった。参加者は本学大学院生（5名）、研究員（7名）、脳科学研究所に関わる教員（20名）、その他、招待講演者（2名）の総勢34名であった。

1日目は坂上雅道所長による開催宣言から始まり、続いて脳科学研究所の関連教員10名による研究室紹介のフラッシュトーク（Flash Talk for Laboratory Introduction I）が行われた。ここでは各研究室で行っている研究内容や研究室のメンバーの紹介が行われた。本年度のワークショップでは2名の研究者を招き講演を行っていただいた。はじめに国立情報学研究所の准教授である稲邑哲也先生によるヴァーチャルリアリティ（VR）を用いた心理学的な研究とロボット研究との融合についての講演が行われた（Special Talk I）。次に、理化学研究所のユニットリーダーである赤石れい先生によるヒトの社会脳科学研究において新規他者との関係形成の多寡である関係流動性の重要性についての講演が行われた（Special Talk II）。その後、7名の研究員によるポスターのフラッシュトーク（Flash Talk for Poster Session）

が行われ、各研究員は3分間で自身のポスター発表の内容について説明を行った。16時からはHBSHの研究エリア2階、3階にてポスター発表が行われ、多くの参加者が18時まで議論を交わした。

2日目は1日目に参加できなかった10名の教員による研究室紹介のフラッシュトークから始まり（Flash Talk for Laboratory Introduction II）、大学院生5名による口頭発表が行われた（Oral Session: graduate student）。大学院生は現在進めている研究内容について15分間で説明を行った。お昼休憩を挟み、午後からは研究員4名による口頭発表が行われ（Oral Session: post-doctoral fellow）、15時からは2回目のポスター発表が行われた。

今年度は久しぶりのオンサイト開催ということもあり、研究についての議論が白熱した感じを受けた。特にポスター発表では長時間に渡って多くの参加者が議論している光景を頻繁に見かけることができた。来年度以降は、これまで行っていたような学外でのワークショップを計画しており、大学院生の教育的な効果が期待できる。

（玉川大学脳科学研究所 高岸治人）

最優秀研究賞：新井さくらさん

優秀研究賞：小口峰樹さん

奨励賞：寿 秋露さん

Wednesday, February 15				
Time	Program			Chair
Opening Remarks				
10:00	10:15	脳科学ワークショップ開催宣言	坂上雅道	脳科学研究所・所長
Flash Talk for Laboratory Introduction I				
10:15	10:45	相原 威、岡田浩之、奥村 哲、酒井 裕、坂上雅道、佐々木哲彦、鮫島和行、高岸治人、武井智彦		
10:45	11:00	Break		
Special Talk I				
11:00	12:30	VR・心理学・ロボットの融合による人のアシストシステム	稲邑哲也	国立情報学研究所 武藤
12:30	13:30	Lunch Time		
Special Talk II				
13:30	15:00	脳・人間・社会のマルチスケールの脳の計算論	赤石れい	理化学研究所 高岸
15:00	15:15	Break		
Flash Talk for Poster Session				
15:15	15:20	Why punish cheaters?: Withdrawing cooperation leads to better reputational consequences	新井さくら	松田研・研究員
15:20	15:25	Neural population dynamics of macaque V1 and IT in metacontrast masking	正岡明浩	武井研・研究員
15:25	15:30	Common variability between perceptual and motor timing deteriorates the perception of self-produced intervals	箕谷啓太	酒井研・研究員
15:30	15:35	Elucidating the neural mechanism of prosociality using the donation game	小口峰樹	坂上研・特任准教授
15:35	15:40	Investigation on the role of the PFC in the working memory function using DREADDs technique and non-human primates	蔭 嘉森	坂上研・研究員
15:40	15:45	Computational modeling for achieving mutual cooperation in a social dilemma situation	田中大貴	高岸研・特任助教
15:45	15:50	Microcircuit in Superficial Layer of Neocortex: Insights from Neuromodulation and Connection Specificity with Interneuron	Agahari FA	田中研・研究員
15:50	16:00	Break		
Poster session I				
16:00	18:00	Poster presentation and Discussion by all attendee		

Thursday, February 16				
Time	Program			Chair
Flash Talk for Laboratory Introduction II				
10:00	10:40	岩田恵子、佐藤由紀、田中康裕、原野健一、松田哲也、松元健二、武藤ゆみ子、磯村宜和、大森隆司、川口泰雄		
10:40	10:45	Break		
Oral Session (graduate student)				
10:45	11:00	Facial expression changes induced by optogenetic intra-cranial self-stimulation: using HOG for facial expression analysis	澤口 光	田中研・M1 奥村
11:00	11:15	Association of DNA methylation of the oxytocin receptor gene with loneliness and prosocial behavior	李 述冰	高岸研・D1 岡田
11:15	11:30	Modification of temporal pattern sensitivity for inputs from medial entorhinal cortex by lateral inputs in hippocampal granule cells	中島直樹	相原研・D3 松田
11:30	11:45	Resting-state functional connectivity mediating the association between oxytocin and caution	寿 秋露	高岸研・D3 鮫島
11:45	12:00	Dynamics of neuronal activity in medial prefrontal cortex of rats during instrumental learning	杉本翔哉	田中研・D3 酒井
12:00	13:00	Lunch Time		
Oral Session (post-doctoral fellow)				
13:00	13:25	Why punish cheaters?: Withdrawing cooperation leads to better reputational consequences	新井さくら	松田研・研究員 田中
13:25	13:50	Multimodal imaging brain markers of human prosocial behavior	田中大貴	高岸研・特任助教
13:50	14:00	Break		
14:00	14:25	Common variability between perceptual and motor timing deteriorates the perception of self-produced intervals	箕谷啓太	酒井研・研究員 武井
14:25	14:50	Preferred Recurrent Connectivity in Superficial Layer of Rat Neocortex as Revealed by Target Specific Neuromodulation	Agahari FA	田中研・研究員
14:50	15:00	Break		
Poster session II				
15:00	16:50	Poster presentation and Discussion by all attendee		
総括と展望				
16:50	17:00	ワークショップの総括&閉会宣言	坂上雅道	脳科学研究所・所長